

様式(文部科学省ガイドライン準拠版)

平成 30 年度

自己評価報告書

2019 年 5 月 1 日

JTB トラベル&ホテルカレッジ

目 次

本書の使い方 p 01

1. 学校の理念、教育目標 p 02

2. 本年度の重点目標と達成計画 p 03

3. 評価項目別取組状況 p 04

基準 1	教育理念・目的・育成人材像	p 05
1-01	理念・目的・育成人材像	p 06
基準 2	学校運営	p 08
2-02	運営方針	p 09
2-03	事業計画	p 10
2-04	運営組織	p 11
2-05	人事・給与制度	p 13
2-06	意思決定システム	p 14
2-07	情報システム	p 15
基準 3	教育活動	p 16
3-08	目標の設定	p 17
3-09	教育方法・評価等	p 18
3-10	成績評価・単位認定等	p 21
3-11	資格・免許の取得の指導体制	p 22
3-12	教員・教員組織	p 23
基準 4	学修成果	p 25
4-13	就職率	p 26
4-14	資格・免許の取得率	p 27
4-15	卒業生の社会的評価	p 28
基準 5	学生支援	p 29
5-16	就職等進路	p 30

5-17	中途退学への対応	p 31
5-18	学生相談	p 32
5-19	学生生活	p 33
5-20	保護者との連携	p 35
5-21	卒業生・社会人	p 36
基準 6	教育環境	p 38
6-22	施設・設備等	p 39
6-23	学外実習、インターンシップ等	p 41
6-24	防災・安全管理	p 42
基準 7	学生の募集と受入れ	p 44
7-25	学生募集活動	p 45
7-26	入学選考	p 47
7-27	学納金	p 48
基準 8	財 務	p 49
8-28	財務基盤	p 50
8-29	予算・収支計画	p 52
8-30	監 査	p 53
8-31	財務情報の公開	p 54
基準 9	法令等の遵守	p 55
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	p 56
9-33	個人情報保護	p 57
9-34	学校評価	p 58
9-35	教育情報の公開	p 60
基準 10	社会貢献・地域貢献	p 61
10-36	社会貢献・地域貢献	p 62
10-37	ボランティア活動	p 64

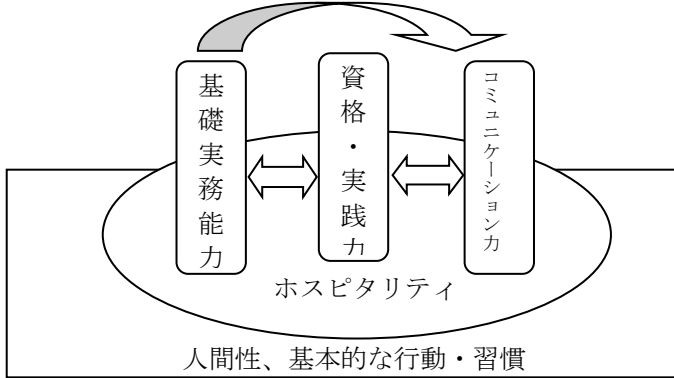
4. 平成30年度重点目標達成についての自己評価 p 65

「自己評価報告書」について

- 1 この「自己評価報告書」は2013年3月、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」に示された「項目別の自己評価表イメージ」及び「自己評価における評価指標・観点・参考資料一覧表」などを参考に構成されたもので、各評価項目は、私立専門学校等評価研究機構がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」が適用されたものであります。

- 2 チェック項目別の自己評価については、現状の取組状況を4段階で自己評定したものであり、その考え方は以下のとおりです。
 - 4：適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
 - 3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組が期待される。
 - 2：対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
 - 1：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

1. 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p><教育理念></p> <p>観光産業に必要な専門能力・ホスピタリティと共に、社会人・職業人としてグローバルに通用する人間性・基本能力を備えた人材を育成する。</p> <p><私たちの約束></p> <p>私たちは、JTB の学校ならではの優れた実践的教育と徹底した個別指導により、高い就職率と一人ひとりの夢の実現に貢献します。</p> <p>また、私たちは、30年以上に及ぶ学校運営の実績を大切にしながら、旅行・観光業界の環境変化やニーズに応えるカリキュラム改革を継続し、社会に認められる学校づくり、人づくりに邁進します。</p>	<p><教育方針></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光産業に必要な知識と実務能力を習得させる。 2. 観光産業に必要なかつ有効な資格を取得させる。 3. 知識だけでなく、実践に生かせる能力を習得させる。 4. 職業人としての基本となるコミュニケーション能力を習得させる。 5. ホスピタリティの精神を行動に表わす能力を習得させる。 <p><観光産業に必要な能力></p>  <p>The diagram illustrates the components of required industry capabilities. It features three vertical boxes: '基礎実務能力' (Basic Practical Ability) on the left, '資格・実践力' (Qualification/Practical Ability) in the center, and 'コミュニケーション力' (Communication Ability) on the right. These three boxes are interconnected by double-headed horizontal arrows. A large, curved arrow at the top points from the left box towards the right box. All three boxes are situated within a larger oval shape labeled 'ホスピタリティ' (Hospitality). Below this oval, the text '人間性、基本的な行動・習慣' (Humanity, Basic Action/Habit) is written, indicating the foundational elements that support the hospitality concept.</p>

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

田口昌彦

2. 本年度の重点目標と達成計画

平成 30 年度 重点目標	達成計画・取組方法
<p>昨年度は、本学を取り巻く激しい環境変化の影響を受け学生確保に向けての諸施策を講じてきたものの、新入学者は236名と残念ながら12年ぶりに定員割れとなり、期首学生総数は456名と昨年より46名減少したことから、今年度の学校運営は収支計画上、さらに厳しい形でスタートすることになった。</p> <p>しかしながら、我々は、旅行・観光業界で活躍しうる人材育成という重要な使命の下、国家試験合格率や就職率へのこだわりに加え、メンタル面も含めた教室外での学生指導に関する支援体制の強化を図りつつ、全教職員が「JTCブランドにさらに磨きをかける」という意識を持ち、今後も、本校の教育理念に基づいた「高品質な教育の実践」を継続していくこととしたい。</p> <p>ただ、時代の変遷とともに、旅行・観光産業の業態にも徐々に変化が現れてきていることから、今業界から求められる新たな「即戦力人材像」を敏感に察知したうえで、カリキュラムの一部修正や新規導入等について考えていきたい。</p> <p>また卒業生の進路についても、再編を行ったJTBの新しい組織運営が安定化するまでは、旅行・観光産業界を中心とした「JTBグループ外就職先の拡充」に向けた取組の継続が必要と考えているが、その業界から少し枠を広げ、学生達が身に付けた観光関連知識やホスピタリティといった能力を、何らかの形で発揮できる分野を開拓し、新たな企業との関係強化を図ることにより、将来的な就職率100%の維持に繋がるとも考えている。</p> <p>今年度は「日本人学生を主とした学生募集活動の徹底強化」を最重点課題として取り組むことは言うまでもないが、事業活動支出を工面して収支均衡を図り、さらには将来的な学校運営のあるべき姿・将来展望を描きながら本校自体における組織力の更なる強化を図るとともに、JTBグループとの強力な連携を保ちながら、柔軟な発想と対応をもって学校運営に邁進したいと考えている。</p>	<p>部門別の具体的な達成計画、取組方法は以下のとおり</p> <p>教務関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 旅行業務取扱管理者高合格率の継続と各種資格取得への積極的な挑戦 2. 社会人としての基礎能力育成強化 3. 「今、求められる人材」の育成を意識したカリキュラムの設置 4. 講師の教授力・専門力の更なる向上 5. 将来的課題への対応を意識した具体策の展開 6. 日本人学生希望就職率100%の継続とより良質な就職先の確保 7. 留学生希望就職率向上と優良就職先の一層の拡充・関係強化 <p>学生募集関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度者募集目標(定員240名)の達成 2. 積極的・効果的な広報展開 3. 学生募集営業の強化 4. オープンキャンパスの充実 5. 入試制度の改善・見直し 6. コンプライアンスを遵守した広報・募集活動 <p>総務関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 収支バランスの維持と経営の安定化 2. 学習環境・就業環境の整備 3. 学校運営の中長期的安定化に向けた組織体制の整備、組織力強化 4. JTC内部統制システムの強化と実効的運用 5. 学校運営に相応しい教職員人材の安定的確保

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

3. 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念、及び JTC コードに記した「私たちの約束」、そして教育方針はもちろんのこと、基本的な知識や実務能力の習得に加え、コミュニケーション能力の強化に力点を置き、観光産業界で求められるホスピタリティ精神旺盛な人材の育成を目指す本学の指導方針は、常勤・非常勤（専門講師）を問わず、全教職員に定着している。</p> <p>言うまでもなく、教育理念、教育方針、そして育成人材像については、まさしく観光産業界を意識したものであり、長年のコミュニケーションの深化により、JTBグループをはじめとした関連業界各社の求める人材ニーズに適合していると認識している。</p> <p>この理念に基づき、当校の特色ある教育活動については、多くの関連業界各社から十二分に理解をいただいております。企業実習の受入等でも大いに協力を得ています。</p> <p>しかしながら、我々を取り巻く JTB グループや関連産業界のみならず、社会情勢や国際情勢は大きく変化を続けていることから、本校教育理念を軸に、中長期的な学校運営ビジョンを描きつつ、柔軟性をもって人材育成に取り組んでいくことが、引き続き大きな課題と認識している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部統制強化の一環として、学内における理念等の浸透度・定着度点検も含め、夕礼における経営理念の全体唱和や、各部課単位での JTC コード定期点検の継続を図り、教育理念・経営理念を意識した行動の継続を徹底する。 ・ 時代の変遷とともに、旅行・観光産業の業態にも徐々に変化が現れ、業界の求める人物像にも少なからず変化が生じてきており、本校の経営計画の基本方針には、「旅行・観光産業に従事する、即戦力人材の養成」と掲げているが、今後は業界で求められる、新たな「即戦力人材像」を敏感に察知したうえで、店頭接客販売をメインとした、従来型の人材育成方法に固執せず、ゼロベースではないものの、カリキュラムの一部修正や新規導入等、授業プログラムの再編を行うことが課題であると考えている。 	

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

田口昌彦

1-1 理念・目的・育人人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育人人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育人人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p>	<input type="checkbox"/> 本校で定める教育理念については、中期経営計画に謳い教職員全員及び関係者に周知するとともに、「私たちのお約束」「教育方針」と併せて本校ホームページに掲載し、社会全般に広く周知させている <input type="checkbox"/> 理念を実現する手法として、具体的な分野別実行計画を毎年策定している <input type="checkbox"/> 理念については、事業計画の策定時に確認を行い、必要に応じて見直しを図っている			(学)国際文化アカデミー 2018年度学校運営計画
1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程、授業計画(シラバス)等の策定において関連業界等からの協力を得ているか	<p>4</p> <p>4</p>	<input type="checkbox"/> カリキュラムとの連動を図ったうえで、関連業界の求める人材要件を明確化している <input type="checkbox"/> 現カリキュラムを策定する際(2014年)に、関連業界からの協力を得ている。	旅行・観光業界の中でも、即戦力人材として求められる能力が、リテールのみならず商品造成・WEB 販売等へと変化してきているため、カリキュラム編成の再検討が課題	新しい分野の習得を意識した指導要領の策定を検討	(学)国際文化アカデミー 2018年度学校運営計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず教員採用において関連業界からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか	4 4 4	<input type="checkbox"/> ほぼ全教員がJTBをはじめとした関連業界出身者である <input type="checkbox"/> JTBグループ会社や宿泊関連業界から多大なる協力を得ている <input type="checkbox"/> 関連業界の研究機関より多大なる協力を得ている	(続き) 2020年度より開始する新たな教育課程の実施に向け、関連業界への更なる協力要請が必要		
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	4 4	<input type="checkbox"/> 理念に基づいた当校独自のプログラムにより学生への指導を行っている <input type="checkbox"/> 旅行会社や宿泊施設を中心に取り組んでいる	JTBグループである当校ならではの特色を生かした教育活動の継続	今後も社会環境等の変化に即応しながら、当校の特色を生かした教育活動の実践を目指す	(学)国際文化アカデミー 2018年度学校運営計画 「教育理念」「教育方針」
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的(3～5年程度)視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 中期3カ年経営計画を策定し、これに基づいた構想を定めている <input type="checkbox"/> 中期経営計画策定時に全教職員に周知している <input type="checkbox"/> 保護者に対しては説明会で、JTBグループ等に対しては事業計画で説明	今後の18歳人口の減少に伴う学校運営体制の維持 JTBが主体となった専門職大学化構想の具体的展開	学内外プロジェクトにおける具体的方向性の検討	(学)国際文化アカデミー 2018年度学校運営計画 「教育理念」「教育方針」

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>当校の教育理念・目的は、事業運営計画に明記し、全体会議等で徹底しており教職員全員に浸透していると認識している。また、人材育成の過程においては、基本的な知識や実務能力の習得に加え、コミュニケーション力の強化に力点を置き、観光産業界で求められるホスピタリティ精神旺盛な人材を理想像とし、その育成に努めることを教職員に徹底している。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営は全体事業計画(中期／単年度)と、各教職員の職務分担に基づき進められている。各部の組織運営職者が計画の進捗状況を点検し、必要に応じて修正を加えるほか、週毎の部長連絡会にて、各々の状況報告、意見交換、対策検討等学校運営全体に関する調整を行い、経営会議にて意思決定を図っている。</p> <p>その他、課長相互間の業務推進会議、教務部会等にて、実務レベルでの学校運営状況の共有と共通課題に対する対策の検討が行われている。</p> <p>教職員個々においても、当校事業計画に基づく目標設定、及び半期毎の進捗状況チェックが行なわれており、学校運営の推進と点検は多角的に実施されている</p> <p>当校は常勤教職員が約 30 名と小規模組織であるため、相互のコミュニケーションは良好であり、部長相互間の意思疎通も上記のとおり十分図られている。新たな課題解決や運営計画の修正、その他学校行事・学生説明会・就職指導などに関する意思決定についても、迅速に行なわれている。</p> <p>教職員は JTB グループ出身の役員・主任講師を中心に構成されており、職務や事業運営に対する責任意識は高く、業務遂行や学校運営は順調に推移している。全体的にベテラン職員が多いものの、組織全体の活性化、変化への対応力強化にも積極的に取り組んでいる。</p>	<p>学校運営上の問題点については左記のとおり、重要な問題点はないと考えられるが、学校を取り巻く環境が刻々と変化を続ける中、将来的な経営リスクを先取りしつつ、以下の項目について強化を図っていききたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校経営における継続課題、重点課題、将来課題を経営メンバーにより幅広く掌握し、課題解決に向けた議論の活性化、事業の具体的推進に関する方向性の意思統一を図る 2. 学習環境・就業環境の更なる向上を目指し、安定的な学校経営を継続すべく、中長期にわたる収支計画・設備投資計画・修繕計画を策定し実践していく 3. 中間管理職層における経営参画意識の向上を目指し、意識改革の促進に向けた取組強化を継続する。 	<p>＜学校運営計画の基本方針＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新入生 240 名以上の安定確保による、経営の安定化と収支バランスの維持 2. 環境変化に応じた教育の実施による、専門能力・意識・行動の向上 3. 就職率 100%の維持とマッチング強化 4. 学生、関係者のみならず、社会からも評価される学校づくりの実践 5. コンプライアンス体制の推進・徹底による、健全な学校運営の実現

最終更新日付

2019 年 5 月 1 日

記載責任者

田口昌彦

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか	4	<input type="checkbox"/> 中期計画及び単年度毎に学校運営方針を明確に定め文書化し、徹底している			(学)国際文化アカデミー 2018年度学校運営計画 学則、必携ハンドブック、担任指導要領、行事マニュアル、共有フォルダー
	<input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか	4	<input type="checkbox"/> 経営理念、教育方針、事業計画をベースとして学校運営方針を定めている			
	<input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか	4	<input type="checkbox"/> 学校運営方針は全体講師会や各部内会議にて、全教職員に周知徹底している			
	<input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	4	<input type="checkbox"/> 全体会議、月例の夕礼、個人面談等を通じて確認			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校運営方針については、中期計画、単年度計画ともに、全教職員に周知徹底されている。小規模な組織運営のため、相互のコミュニケーションもよく、機会を捉えた再確認もなされている。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画(3～5年程度)を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 事業計画については、3カ年の中期計画、及び単年度計画を事業分野別も含めて定め、収支計画と併せ、経営会議、理事会で確認している <input type="checkbox"/> 部長会議、経営会議の場を活用し、計画の進捗状況の確認や、必要に応じた修正を行っている <input type="checkbox"/> 中期計画や単年度事業計画とは別に、経営上の重要課題を前広に整理し、優先順位を見極めつつ課題解決を図っている。			(学)国際文化アカデミー 2018年度学校運営計画 中期3カ年事業運営計画

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>事業運営計画については、本校の教育理念を達成するため、分野別に担当役員や部長を中心に原案策定の後、経営会議等にて全体計画を確認している。さらに事業年度開始後も、分野別の進捗状況を、部長会議や経営会議の場で確認し、適宜状況判断に応じて、具体的実行計画の追加・修正をする等、相互調整を行っている。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続を経て改正しているか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 寄附行為を遵守し適切に遂行している <input type="checkbox"/> 必要な審議を行い、適切に議事録を作成している <input type="checkbox"/> 必要に応じ、適正な手続を経て改正をしている (ここ数年の改正はない)			寄附行為
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録(記録)は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 整備している(2015年4月に様式変更済) <input type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 明確化している <input type="checkbox"/> 明確化している <input type="checkbox"/> 作成している <input type="checkbox"/> 整備している			<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制 ・職務分掌 ・権限基準 ・各会議議事録

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	<input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか <input type="checkbox"/> 学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組を行っているか	4 4	<input type="checkbox"/> 立案等、適正な手続きを経て改正をしている <input type="checkbox"/> 職員個々のモラルとモチベーションの維持向上に向けた評価制度を設け、運用している	働き方改革関連法案の施行に伴う就業規則の見直しを検討中	順次チェックを行い、必要に応じて改定を行う。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
組織運営における各部長のマネジメント力、実務能力は必要十分なレベルで、意思決定も、職務分掌、権限基準等で明確であり、必要により経営会議や部長連絡会、立案等で迅速に行っている。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する 制度を整備している か	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続について規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 「職員就業規則」に明記 <input type="checkbox"/> JT B及びJT Bグループと定期的に情報交換の場を持ち、必要な人材が安定的に確保できている <input type="checkbox"/> 「職員給与規程」に明記 <input type="checkbox"/> 2016年度期首における規程の一部改訂により明確化し、これを適切に運用している <input type="checkbox"/> 「職員給与規程」の改訂により明確化し、適切に運用している	<p>教職員の採用基準はもとより、職位・職責等についても雇用形態に関わらず明確化している。</p> <p>職群制に基づく職位・職責を明確化しており、現状の運用方で問題ないと思料する。</p> <p>現行の給与制度(本給+役割成果給)、評価制度が本学に適しているか否かの再検討が必要</p>	再検討のうえ必要があれば、制度の改定が必要。	目標シート 人事評価表 職員就業規則 職員給与規程

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
人事制度については2016年4月に改訂し、60歳で定年となる正規雇用職員の定年後65歳までの継続雇用について「シニア職員(=契約社員)規程」に明確化し、ダイバーシティの観点より職員個々のライフスタイルに応じた、職種、勤務を可能とし運用している。	事務嘱託、非常勤講師等を含めた人事運用制度は一旦整理したが、高齢者職員が多いため、常に4～5年先を見据えて要員の安定的確保を進めるべく、JT Bグループとの密な情報交換を行いながらの人事運用を継続している。

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

田口昌彦

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 教務・財務に限らず、事業運営全般に関し、決裁に至るまでの権限と責任を、関係規程及び権限基準等により明確化している <input type="checkbox"/> またこの意思決定システムは、必要に応じて適宜見直しを図っている			寄附行為 会議規程 立案規程 職務分掌 職務権限基準

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>当校においては、理事会を学校法人運営に関する最終的な意思決定機関、評議員会を諮問機関として位置付け、これを寄附行為にて明確化している。</p> <p>また経営会議を当校自体の意思決定機関として権限基準に明確化しており、同会議の他に毎週開催している部長会議にて最新経営情報を共有しており、役員及び組織運営職者による意思決定の仕組は確立されている。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> 情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 学内管理-Info Clipper 会計管理-tomas-kaikei を使用し管理体制を構築 <input type="checkbox"/> 教職員同士の情報提供・情報共有・意思決定については、G-mail、rakumo 等を活用している <input type="checkbox"/> 上記管理システムによる管理の他、一般ソフト利用により、サーバーに蓄積した画像や資料を授業に活用している <input type="checkbox"/> 学生・会計ともにデータは適宜更新し、最新の状態を維持している <input type="checkbox"/> 今年度からはJSS社員が常駐し、セキュリティ体制の強化とシステム監視体制の強化を図っている。	左記のとおり、用途に併せシステム等を教職員の業務処理のみならず、授業の中で学生に対しても活用している。ただ使用しているソフトやアプリケーションが多岐にわたることから、ネットワークの全体像が整理できていない 近年は各企業や組織のITシステムが新たなコンピューターウイルスの脅威に晒されているため、更なるITセキュリティ体制の強化が必要と感じている。	2年前より、JTB情報システムへの業務委託により、JSS社員が週2日間常駐して本校システムの監視を行っているが、リスクマネジメントの観点より、更なる監視体制強化に向け検討を行っている。 また従業員の意識強化に向けたITセキュリティ研修の実施も検討している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報システムに関しては、①業務改善(業務フローの見直し)、②業務効率化(スピード化、簡素化)、③システムの利便性向上、④セキュリティ強化といった各要素が満たされている必要があり、現状は標準以上のレベルは保たれているが、IT環境の高度化に伴った更なるレベルアップを目指す必要がある。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>「観光産業に必要な専門能力・ホスピタリティと共に、社会人・職業人として通用する人間性と基本的な能力を備えた人材を育成する」との教育理念のもと、学生個々に対する専門実務教育のみならず、豊かな人間性、ホスピタリティ精神溢れる人材の育成に注力した。</p> <p>1. 国際観光ビジネス科においては、1 年次前期は国家試験に特化したカリキュラムを 2015 年度より継続強化したことにより、過去最高の合格率を獲得できた。1 年次後期と 2 年次前期には、就職活動支援に特化したカリキュラムで大きな成果＝希望者就職率 100% を継続達成している。2 年次後期には就業のための心構えと実践的なカリキュラムを組み、就職先から大きな信頼を得てきている。</p> <p>2. ホテル科については、学内の座学・実習のほか、多くの時間をホテル見学と実習(2 カ月×2 回)にあて、実践的な経験を経て就業意識・スキルを磨いている。結果、安定して希望者就職率 100% を実現している。</p> <p>3. 訪日科(留学生)では、進路が①日本での就職、②日本での進学、③母国での就職 であるが、国家試験取得を目指す学生への個別指導、進学を目指す学生への編入斡旋、国内企業への就職斡旋のほか日本文化交流体験などを実施している。2015 年度より 2 年連続で希望就職率 100%、2018 年度は 97.9% の結果に終わった。</p> <p>担任による日常生活指導や年間行事を通じたコミュニケーション向上も実施し、広く社会に認められる人材教育に努めているが、益々変化することが予想されるマーケットに、より柔軟に対応するカリキュラム編成、学校運営が必要なことである。</p>	<p>平成 30 年度の成果と課題を鑑み、平成 31 年度の重点課題は次のとおり。</p> <p>1. 旅行業務取扱管理者高合格率の継続と各種資格取得への積極的な挑戦</p> <p>① 合格率目標:総合 40%、国内 70%</p> <p>② 宿泊業界向け初の国家資格「ホテル・マネジメント技能士」取得対策授業の新設</p> <p>2. 社会人としての基礎能力育成強化</p> <p>① 社会人基礎力、創造力を磨く授業のブラッシュアップ</p> <p>② 就職内定時期早期化に伴う、内定者対象授業内容の再検討</p> <p>3. 「今、求められる人材」の育成を意識したカリキュラムの設置</p> <p>①新設「国際ホテル&ブライダル科」の円滑な学科運営</p> <p>②2020 年度新設予定「グローバル・インバウンドコース」カリキュラム策定</p> <p>4. 業務効率化の推進と効果的な教育環境の整備</p> <p>5. コンプライアンスの徹底</p> <p>6. 進路指導</p> <p>① 日本人学生希望就職率 100%継続と良質な就職先の確保</p> <p>② 留学生希望就職率向上と優良就職先の一層の拡充・関係強化</p>	<p><国家試験> 観光科国家試験合格率:(全国平均の倍を目標) 国内60%以上→結果80.9% 総合30%以上→結果52.6%</p> <p><就職(除く留学生)> 希望者就職率100%を26年間連続達成後2009年度は99.3%。2010～2012年度は3年連続100%、2013年度は99.5%。2014～2018年度は5年連続100%。</p> <p><就職(留学生)> 2011年度初めて希望者就職率100%を実現、2012年度は82.1%、2013年度は88.6%、2014年度は89.3%、2015年度から2年連続100%。2018年度は97.9%。</p> <p><特色ある講座></p> <p>① 国際交流文化:留学生と邦人学生が同数で文化を学ぶ</p> <p>② 訪日観光研修:とげぬき地蔵盆踊り、大塚天祖神社御神輿</p> <p>③ ホスピタリティ基礎:様々な観光産業で活躍するカリスマ・ベテランの話聞く</p> <p>④ ボランティア:巣鴨町内会と合同のクリーンアップ活動とインバウンド向けボランティアガイド</p> <p>⑤ 観光総合:実務から教養まで観光就業に役立つ知識を様々な講師で教授</p> <p>⑥ 実習・オフィストレーニング:JTB グループ会社・支店をはじめ観光業の現場実習</p> <p>⑦ 実習・ホテル実習:首都圏主要ホテルで実務研修</p> <p>⑧ 研修:国際観光ビジネス科＝沖縄、パリ、訪日科＝草津、北海道、江の島・鎌倉、国際ホテル科＝都内・上海</p> <p>⑨ クローズアップ:マーケット最前線にいる業界人による授業</p>

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

坂本 友理

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	4 4	<input type="checkbox"/> 明確に定めている <input type="checkbox"/> 即戦力となりうる教育課程(カリキュラム)の新設を複数実施した。	観光業界のニーズの変化への柔軟な対応	定期的に就職・実習先企業へ教職員が訪問して意見交換と情報収集の実施	学生ハンドブック シラバス&レッスンプラン
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 旅行業・ホテル業の実務・経営を経験した教職員がカリキュラムを毎年検証している <input type="checkbox"/> 国際観光ビジネス科は全員国家試験への挑戦を義務づけ、また現場での実習を実施 ホテル科は 2 カ月×2 回のホテル実習を実施 <input type="checkbox"/> 十分に旅行業・ホテル業の実情を理解したうえで、情熱を持って応募・就業するよう指導している	同上	主要就職先企業にも参加してもらいカリキュラムを検証	募集パンフレット 学生ハンドブック 時間割(昼間部) 時間割(夜間部) シラバス&レッスンプラン

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
商業専門士取得を目指したカリキュラム編成と 2 カ年間のロードマップの明示により学生/教職員共々、到達目標に共通認識を持っている。	幅広い年齢層の学生(18歳~24歳超)の学習意欲・就業意欲を個別管理するためクラス担任制を設けている。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4 4 4 4 4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 即戦力を養成する為、業界用の実務科目／専門科目を中心に据え、ソーシャルスキル・IT スキル・英会話・資格対策・教養科目で脇を固め、2 カ年で初期目標の到達を期する <input type="checkbox"/> 業界の求める専門性と実務能力の修得に主眼を置く為、業界出身のエキスパートにより講師陣を編成し安定的な講義運営はもとより、タイムリーな業界情報を盛り込んだ講義内容で実施する <input type="checkbox"/> 全体講師会・分科会・関連科目講師会議、教務検討会により、教育素材の吟味・教授手法の研鑽を積み、効果的な教授法を修得する。尚一層体系的なカリキュラム編成を旨とする <input type="checkbox"/> 最終目的である自律型の職業人育成の為、広範な教養を修得させる <input type="checkbox"/> 留学生には多くの国際交流を通じて、異文化理解の促進や文明の摩擦・衝突について考察・体験する機会を設ける	<p>学生の入学前の学力に差が大きくある為、どのレベルに合わせた授業が最適か常に検証する必要性</p> <p>就職内々定後の学生のモチベーション維持が課題</p>	<p>V時限対応(放課後)で英語・数学・国家試験対策・資格試験対策の補講の実施</p> <p>内々定企業と連携して就業先で役に立つ資格への挑戦奨励、オムニバス講師方式のホスピタリティ講座、観光総合演習講座、クローズアップ講座の充実</p> <p>内定後の学生のモチベーション向上のため、2018 年度 2 年次に3カリキュラムを新設</p>	<p>募集パンフレット 学生ハンドブック 時間割 シラバス&レッスンプラン V時限授業「時間割」</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか <input type="checkbox"/> 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか	4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 座学、実習、各種端末操作等工夫をしている <input type="checkbox"/> 適切に指導している <input type="checkbox"/> 作成している <input type="checkbox"/> 授業内容の理解度を確認し適宜見直しを行っている			
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3 4 3	<input type="checkbox"/> 策定にあたり可能な限りの外部専門家・業界情報の入手に努めている 在校生には授業アンケートによる意見聴取をしている。 <input type="checkbox"/> 外部専門家・業界関係者との連携を図り実践教育の効果を検証している	定期的な意見聴取には至っていない。特に、宿泊業界、ブライダル業界、運輸業界については、多面的なヒヤリングが必要。 就職者全体の3割を占めるJTBグループの事業戦略に対応したカリキュラム編成	観光業界の変化を予測し、既存の科目のなかで、外部講師を招くなどし、ブラッシュアップを図る	学生ハンドブック 時間割
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	4 4	<input type="checkbox"/> 方針を定めている <input type="checkbox"/> 各種端末操作、企業実習等キャリア教育のカリキュラムを充実させている	就職先を中心とした企業実習・派遣先の安定的な確保	左記企業とのより一層のコミュニケーション強化	募集要項 実習報告レポート

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	□就職先での状況は就職先の担当者、先輩の卒業生から情報を積極的に入手している			
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか □学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか □授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか □教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	4 4 4 4	□整備している □期中7月と期末2月の年2回定期見直し時期とする □評価内容について関連業界に協力を仰いでいる □学生アンケート結果を教員にフィードバックし改善に努めている □学生ヒヤリングの実施	本音を聞きとるために無記名で学生アンケートを実施しているが、無記名だけに、責任ある回答かどうかの見極めと検証が困難	学生ヒヤリングの実施	授業アンケート 授業アンケート集約表 講師指導記録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学則を変更し、新しいカリキュラム・授業時間数・単位数にて滞りなく実施した。また中期経営計画2年目の基本方針と重点課題を目標に職業人育成を実践した。</p> <p>これまで、かなり早い段階でほとんどの学生が内々定を獲得していること、また旅行関連国家試験合格率の高さから勘案すると、業界のニーズと当校のカリキュラム体系はほぼ合致していると考えられる。入学数、国籍が増加している留学生クラスについては、状況を把握しながら最適なカリキュラムの検討を引き続き行っていく。</p> <p>課題は、学生間の学力格差と内々定獲得後の授業モチベーションの維持向上であり、さらに工夫が必要である。</p>	<p>2年生の就職・卒業に備えた講座</p> <p><u>ホスピタリティ基礎Ⅱ</u>: 各界のプロ・カリスマに聞くホスピタリティ <u>クローズアップ・観光産業</u>: 観光関連産業、JTBグループの事業戦略から最新情報を吸収する。</p> <p><u>観光総合演習</u>: 就業のために教養を深め技術を磨く <u>観光マーケティング</u>: 観光関連の直近の課題を考察し、論文形式にて執筆する。 <u>欧州文化・芸術講座</u>: 観光業に必要な奥深い欧州の文化・芸術を学ぶ。 <u>世界遺産検定対策</u>: 検定2級取得を目指す。</p> <p>内定後の目標管理ノート: 内定先企業と協議のうえ、入社後必要となる資格中心に目標を設定し、実施する。</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定 基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 成績評価に関しては前期・後期の年 2 回実施している <input type="checkbox"/> 取得単位、出欠席状況は常に把握している 評価会議で、基準の適正、統一性を常に行っている。 出席状況については、学生への確認も実施している。 <input type="checkbox"/> 入学者認定に関しては明確な基準を設けている	講師間の同レベルの期末試験作成と評価の実施	新任の講師も含め、均質の評価基準で行ってもらうため、全体講師会等で解説 前・後期期末試験実施後に判定会議を実施し評価基準を統一	学生ハンドブック シラバス&レスンプラン 全体講師会資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	<input type="checkbox"/> 英語スピーチコンテスト、日本語スピーチコンテスト(訪日科)、実習評価(夜間)、皆勤賞等の表彰 <input type="checkbox"/> 旅行パンフレットの作成 <input type="checkbox"/> 「理想のホテル」プレゼンテーション			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
極めて厳格に運用している	病欠者等への対応の為、規定に基づいて追試験を実施し、単位取得を支援している。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4 4	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にし、奨励している <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について前広に明確にしている	旅行業務取扱管理者以外の TOEIC、英検、ビジネス能力検定、秘書検定、ABC 検定、レストランサービス技能検定、パソコン検定、アクセス検定、販売士等の資格試験科目の強化	一次試験通過者への特別対策講座の設置	学生ハンドブック
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	4 4	<input type="checkbox"/> 資格・免許等の指導体制は整っている <input type="checkbox"/> 在校生に対しては補講体制を整備している	成績下位者に対するサポートの強化	基礎的な計算力向上に向けた補講	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
旅行業務取扱管理者資格試験をはじめ、資格取得に向けた目標は、カリキュラム上明確になっており、講師によるサポート体制も充実している。	担任制を敷き、資格取得を奨励するとともに、成績不良等から退学や長期欠席とならないようにサポートしている。また、資格受験を通して、学ぶことの大切さを指導している。資格取得者については、卒業式にて表彰している。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	4 4 4 4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 担当科目に必要とされる能力・資質を明確にしている <input type="checkbox"/> 必要な資格等明確にしている <input type="checkbox"/> 教職員はすべて業界経験者の為、業務に精通している <input type="checkbox"/> 教員は関連業界のOB・OG・出向者で組織している <input type="checkbox"/> 退職年齢、出向者期限(3年)等、計画的に採用を行っている <input type="checkbox"/> 専任・非常勤の構成は明示している <input type="checkbox"/> 明確に定めている <input type="checkbox"/> 把握している	資格試験対応講師はベテラン揃い	後継者育成と主要科目のダブル講師化の実施	学生募集要項 教員別、科目・授業時間一覧表

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 把握・評価し適材適所の配置をしている <input type="checkbox"/> 常勤講師と旅行国家試験科目担当講師全員に、JTB総研の新学期準備研究会への参加を義務付けている <input type="checkbox"/> 東専各主催研修への参加 <input type="checkbox"/> 教職員は関連業界(出身母体)と常に連携をとり業界の動向を把握している <input type="checkbox"/> 支援している	常勤講師の指導力及び教員としての技能のレベルアップ	講師用の適切な時期・内容のセミナーを探すのは容易ではないが、新人常勤講師への外部セミナー出席の義務付け 相互聴講の奨励	授業アンケート 授業アンケート集約表 講師指導記録
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)教員間の連携・協力体制を構築しているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> JTB の幅広い事業分野からバランスよく人材を確保し、専門分野に偏りが出ないように配慮している <input type="checkbox"/> 外部専門講師については業界団体・協会の推薦を中心に、前任者に推挙願っている <input type="checkbox"/> 毎週木曜日の教務部会において情報共有と諸課題検討を図っている <input type="checkbox"/> 3月の常勤・非常勤講師による全体講師会及び分科会にて情報共有と諸課題検討を実施している	専門講師のレベルチェック 航空・鉄道分野など、旅行・ホテル以外においては、体制は十分といえない 講師の都合による休講対応がないため、体調不良等で授業ができない場合の代講措置の仕組みが必要	観光業界との、より密なコミュニケーション 各分野に精通した講師の採用の検討 常勤講師の中での代講措置の検討や休務の場合のワークの整備	聴講記録

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
講師の授業評価とレベルアップの仕組みは、より一層充実させる必要がある	非常勤講師陣はベテランが多く、教授方法に安定感がある。タブレットを使った新しい教材作り等を奨励している。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）																																																								
<p>教育目標は、</p> <p>① 観光業界に就職するために必須の知識・スキルの取得</p> <p>② 知識・スキルの証としての資格試験の合格</p> <p>③ 合格に向けて学習・努力する集中力と持続力の開発</p> <p>④ 十分な業界研究に基づいての、あふれる就職・就業意欲の醸成</p> <p>であるが、①②の成果は全国平均をはるかに凌駕する合格率(旅行業務取扱管理者)を継続している。また③④についても、資格挑戦・企業実習を体験する中でほぼ身につけさせており、大多数の企業(実習先、求職先)から高い評価を獲得しており、就業後も多くの職場で活躍を続けている。</p> <p>その結果が、開校以来 26 年間連続希望者就職率 100%、27 年目 99.3%、28 年目・29 年目・30 年目 100%、31 年目 99.5%、32～36 年目 100%となって表れている。</p> <p>課題としては、各種資格取得者増と JTB グループ外の安定的な就職先企業の確保及び卒業生の各企業・社会での継続的な活躍である。</p>	<p>通常授業、補講、放課後のグループ学習、自宅学習等を強化してより一層の資格取得者増を図る。</p> <p>JTB グループ以外の旅行業界、ホテル・ブライダル業界、宿泊・レストラン業界、鉄道業界、空港関連業務等の観光業界とも連携、コミュニケーションを強化することによって就職先企業の安定的確保を図る。</p> <p>主な就職先企業と連携し、内定後の目標設定・教育及び卒業生の就職後のフォローアップを出来る限り図る。</p>	<p><資格取得者の推移></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">資格</th> <th colspan="2">年度</th> <th rowspan="2">2017</th> <th rowspan="2">2016</th> <th rowspan="2">2015</th> </tr> <tr> <th>2018</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合旅行業務取扱管理者</td> <td>89</td> <td>20</td> <td>69</td> <td>99</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>国内旅行業務取扱管理者</td> <td>123</td> <td>8</td> <td>115</td> <td>145</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>実用英語技能検定2級</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>パソコン2級</td> <td>36</td> <td>1</td> <td>35</td> <td>29</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>秘書検定2級</td> <td>2</td> <td>▲1</td> <td>3</td> <td>18</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>レストランサービス技能検定3級</td> <td>18</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>28</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定3級</td> <td>54</td> <td>▲7</td> <td>61</td> <td>60</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>ABC検定</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p><2018 年度就職先></p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望者就職率=100% ・観光業界への就職率(専門就職率)=96.4% ・JTB グループの就職率=31.3% ・旅行業界就職者のうち、JTB グループ就職者=61.9% <p><卒業生の活躍状況></p> <p>JTB グループ会社をはじめとする多くの企業で、中堅・若手社員として活躍中、社員によっては各種コンテストにも積極的にチャレンジしている。ホテル・ブライダル部門においても、新入社員で営業トップの成績を収めている。また管理職者についても JTB 支店長・店長・課長など多くの人材を輩出している。</p> <p>また、2018 年度卒業生のうち、3 名が東洋大学国際観光学部に転入し(指定校推薦枠)、幅広く観光業を学び、2 年後観光業界を目指す。</p>	資格	年度		2017	2016	2015	2018	増減	総合旅行業務取扱管理者	89	20	69	99	88	国内旅行業務取扱管理者	123	8	115	145	120	実用英語技能検定2級	4	1	3	2	2	パソコン2級	36	1	35	29	46	秘書検定2級	2	▲1	3	18	6	レストランサービス技能検定3級	18	9	9	28	17	ビジネス能力検定3級	54	▲7	61	60	57	ABC検定	2	0	2	9	2
資格	年度			2017	2016				2015																																																	
	2018	増減																																																								
総合旅行業務取扱管理者	89	20	69	99	88																																																					
国内旅行業務取扱管理者	123	8	115	145	120																																																					
実用英語技能検定2級	4	1	3	2	2																																																					
パソコン2級	36	1	35	29	46																																																					
秘書検定2級	2	▲1	3	18	6																																																					
レストランサービス技能検定3級	18	9	9	28	17																																																					
ビジネス能力検定3級	54	▲7	61	60	57																																																					
ABC検定	2	0	2	9	2																																																					

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	坂本 友理
--------	----------------	-------	-------

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 希望者就職率 100% <input type="checkbox"/> 「就職・進路指導室」と担任を主体に、学生の個別指導を徹底し、就職活動及び就職状況を綿密に把握している <input type="checkbox"/> 関連業界と十分な連携をとり、学内企業説明会を実施している。(2018年度実績、43 社団体、参加者延べ 1600 名) <input type="checkbox"/> 適切に管理している	就職環境はインバウンドが追い風の企業は改善傾向にあるが、JTB グループの 2018 年度再編により、グループシェアが低下しており、JTBグループ外のよい一層の良質な就職先の拡充で就職率 100%を目指す。		2018 就職状況一覧 2018 就職先一覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本人学生は27期生で1名、31期生で1名の就職内定が得られず卒業となったが、これ以外の年次は全て100%であり、取組が奏功している。	2011 年度卒業生は留学生も希望者就職率 100%となった。 2012 年度の留学生は 82.1% (28 名中 23 名内定) 2013 年度の留学生は 88.6% (35 名中 31 名内定) 2014 年度の留学生は 89.3% (28 名中 25 名内定) 2015 年度 33 名、2016 年度 40 名の留学生の内定率は 100% 2017 年度の留学生は 98.3% (58 名中 57 名内定) 2018 年度の留学生は 97.9% (47 名中 46 名内定)

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	坂本 友理
--------	----------------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 目標とする資格は、カリキュラム(履修課程)として明確に定めている。「学生必携ハンドブック」にも明記している <input type="checkbox"/> 夏季特別講習・直前対策講習にて旅行取扱管理者資格取得の為にプログラムを設定している <input type="checkbox"/> 比較は常に行っている <input type="checkbox"/> 毎年実績の成果と反省を行い教職員全体で取組み方法の改善を検討している	旅行業務取扱管理者試験の変化する出題傾向への対応 旅行業務取扱管理者試験以外の資格試験受験者数増と合格率アップ 2019年度はホテル初の国家試験「ホテル・マネジメント技能士」資格に挑戦。	過去問の徹底分析や関連ルールの改正に修正したサブ教科書、過去問の作成と教科書作成会社(JTB 総合研究所)との情報共有 学生への意識付けの徹底と補講の充実	学生必携ハンドブック

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
資格取得状況については、最新の登録データを基に認識の共有化が図られており、集中的な対策が講じられて資格取得率の向上に結びついているものと思われる。	総合旅行業務取扱管理者については、当校創立以来、すべての合格者の氏名を校内に掲示し、奨励している。 ビジネス能力検定、レストランサービス技能検定、ABC検定については、2016年度よりホテル科実習室前に掲示を開始した。 2019年度はホテル初の国家試験「ホテル・マネジメント技能士」取得に向けて、授業化を図る。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専門学校に対する学生と保護者の期待は、第一義的には就職支援であり、さらに、社会に出るための社会人基礎能力を身につけさせることである。当校の希望就職率ほぼ 100%の継続は、期待に応えるだけの支援体制ができていると考える。</p> <p>また学生の生活支援については、クラス担任制、保健室体制、奨学金相談体制など、学校規模に則し可能な体制を整備し、効果を上げている。</p> <p>保護者との連携も必要な時点で随時クラス担任と教務部長・校長が行っている。</p> <p>留学生の支援体制についても、出入国管理法令の遵守を大前提とした生活指導・支援ならびにクラス担任による個別相談体制の整備に力を注いでいる。また、旅行だけでなく宿泊関連などの科目を充実させ、就職先の幅の拡大に取組実績を上げている。</p> <p>卒業生への支援体制については、卒業生からの個別相談、草津地区企業就職者への定期訪問、5年ごとの同窓会開催を実施している。</p> <p>今後の課題は留学生を含めた就職先の拡大、退学率低減、卒業生へのより組織的な支援体制の検討である。</p>	<p>JTB グループを中心とした優良な就職先企業の留学生を含めた当校採用枠の拡大に向け取り組むとともに、グループ外企業へのアプローチにより幅広く観光産業界への採用を創出する。</p> <p>家庭が経済的に不安定なため就学継続が困難な学生が増えているので、奨学金活用促進を図る。</p> <p>生活習慣の改善やメンタル面の悩みの解消・低減を必要とする学生が増えているので、クラス担任及び保健師、そして2018年度からはキャリアアドバイザーの設置により、継続的に学生生活を送ることができる体制を強化する。</p>	<p><就職支援></p> <p>①希望先への就職を実現するための密度の濃い対策カリキュラム、</p> <p>②正規カリキュラム外の多くの特別講座(企業ガイダンス、企業訪問、卒業生による就職ミニガイダンス等)、</p> <p>③クラス担任を中心とする時間外個人指導、</p> <p>④企業の人事採用業務経験のある教職員による「採用面接直前チェック」など、支援体制は整っている。</p> <p><学生相談体制></p> <p>健康状態、欠席状況などについて、必要に応じクラス担任・教務部長・校長・保健師が保護者&学生と面談し相談・支援・指導を行っている</p> <p>留学生については、</p> <p>①入学内定者全員に対する入学前オリエンテーション</p> <p>②毎週一回設定されているグループ・アクティビティ(ホームルーム活動)</p> <p>③必要に応じた個別面談などにより、校長・教務部長・クラス担任・学生課長が情報を共有して直接相談・指導を行っている。</p> <p><留学生支援体制></p> <p>2011年度留学生希望者内定率100%、2015年度から2年連続100%。2017年度98.3%、2018年度97.9%にとどまるも、卒業間際、あるいは卒業後も支援体制を構築している。</p> <p><卒業生相談体制></p> <p>転職相談などアプローチのあった卒業生に対して、クラス担任、就職指導室を中心に個別に行っている。</p>

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

坂本 友理

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する 支援組織体制を整備 しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4 4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> クラス担任制と就職進路指導室を設けて支援体制を敷いている <input type="checkbox"/> 常に連携を密にしている <input type="checkbox"/> 就職状況については常に情報共有され、都度未内定者への対策を検討している <input type="checkbox"/> 関連業界とは常に連携を取っている <input type="checkbox"/> JTB グループをはじめ主な企業の就職説明会は学内で行っている (2018 年度実績 43 団体) <input type="checkbox"/> 就職指導のカリキュラムに盛り込んでいる <input type="checkbox"/> 個別相談は常時行っている	就職先企業の当校採用枠の拡大 JTB グループ外の新たな採用先企業増 学生の就職先確保	就職先企業とのコミュニケーション強化 観光業界全体の恒常的な就職先情報収集 学生の面接力・人間力アップ	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設立以来、JTB グループに支えられての就職率であるが、グループ再編により慎重な採用活動になりつつある。グループ外の良質な就職対象企業・業種の幅を広げるニーズが出てきており、新規就職先の営業活動を強化している。また、2018 年度より就職進路指導担当を 1 名増やし、強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ JTB グループ外への就職先拡大に努めている。 ・ JTB 総合提携店など優良な就職先開拓を進めている。 ・ 訪日客増加に伴い、留学生の日本での就職環境が良化し始めているが、特に英語能力が求められており、スキルアップが必須となっている。

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	坂本 友理
--------	----------------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 週 1 回の部長連絡会（経営会議含む）にて、中途退学の把握を行っている。10 年連続目標範囲内（学校目標 10%） <input type="checkbox"/> 上記会議にて「学生動向」シートにて共有。 <input type="checkbox"/> 担任、教務部長、校長での連携で判断している。 <input type="checkbox"/> 学生の抱える事情が違いため低減には限界があるが、担任を中心に指導している。	2017 年度 3 年ぶりに増加した退学率も、2018 年度は▲0.8 ポイントに終わった。入学前と入学時のギャップ、経済困窮学生、生活習慣改善、メンタル面で悩みを抱える学生、進路変更など理由は様々だが、学内全体での危機意識の共有が必須。	学生募集部との連携 奨学金対応 保健師対応強化 担任による徹底フォロー キャリアアドバイザーを 2018 年度導入。	学科別退学者 3 カ年推移 学生指導記録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
担任制によるかなりの密着度ある指導とキャリアアドバイザーを設置し、昨年より退学率は低下した。 2015 年度 6.4%⇒2016 年度 5.5%⇒2017 年度 8.5%⇒2018 年度 7.7%	新任講師や担任変更の際は、いち早く学生との信頼関係の構築が必要とされる。昨年度増加した退学率に対し、危機感を共有し、入学時における「ミスマッチ」を防止すべく、学内全体での連携強化、意識高揚を重点課題として取り組んだ。

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	坂本 友理
--------	----------------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 整備されている ①クラス担任制(全ての窓口は担任) ②就職・進路指導室(キャリアアドバイザー含む) ③保健師健康相談 ④奨学金相談窓口 ⑤授業料納入遅延相談 ⑥進路変更・休学・中退相談 <input type="checkbox"/> 記録は保持し状況により閲覧者を限定し開示している <input type="checkbox"/> 学校医との連携を図っている	メンタル面で悩みを抱えている学生のケア	キャリアアドバイザー(産業カウンセラー免許取得者)を2018年度より設置 左記各組織の連携した学生対応	月次保健師相談記録 校長・学生指導記録
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 留学生の学科にもクラス担任制を敷いている <input type="checkbox"/> クラス担任が在籍管理を適切に行っている <input type="checkbox"/> 日本人学生と同様の就職支援に加えて就活のための日本語指導を行っている <input type="checkbox"/> 指導記録は適切に保管している	最終帰国日の「帰国報告書」入手に時間を要する場合あり	予め報告用葉書を手交し、確実な報告を促す	校長個別相談記録

中項目総括

特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)

事情を抱える学生の数が増えているため、一人ひとりに十分な時間での個別面談が必要となっている。

・基本的には担任制による個別指導により、退学をとどまる学生もいるが、保護者の協力も不可欠で適切な時期に3者面談を実施し、軽減に努めたい。

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

坂本 友理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 保健師からの健康管理情報を発信している <input type="checkbox"/> 保健室に週 2 日間駐在する保健師が相談に対応 <input type="checkbox"/> 症状に応じて近隣の医療機関と連携している	最近増えつつあるメンタル面での相談対応	保健師にキャリアアドバイザー資格を持つ職員を加え、メンタル面での対応力を強化。	
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のために寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	3	<input type="checkbox"/> 学生寮は整備していない <input type="checkbox"/> 遠隔地出身者に対し、募集要項の中でも優良な学生会館を紹介し、優先入居可能であることを伝えている	近年は学生会館を利用する者は減少傾向にある。 一部のホテルと提携し、実習や就職との兼ね合いで独身寮を使用できる便宜を図っているが、利用実績はまだない。	時代背景や維持費の効率性を鑑み、学生寮の独自保有は不要と判断	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	3	<input type="checkbox"/> クラブ活動自体を行っていない。 <input type="checkbox"/> 課外活動としては、クリーンアップ活動や地元の盆踊り大会等、積極的に地元行事に参加し地域住民との交流に努めており、学校が全面的に学生を支援している。	高品質な教育の実践を重点課題とし、授業カリキュラム及び関連行事の充実を最優先に学校運営を行っており、在学期間、学校設備等を客観的に判断すると、本格的なクラブ活動は不要と考えている		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的支援、健康管理、課外活動支援等、学生生活の更なる充実化に向けた支援体制については、可能な範囲で今後も前向きに検討していきたい。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 必要に応じ適切な連携を図っている ①保護者個別面談(欠席頻発、単位不足、健康不安、コミュニケーション能力、経済問題学生) ②学校短信(年3回発行)と成績表送付(保護者との通信欄あり) <input type="checkbox"/> 保護者等の連絡先は確認をしている	問題のある学生に関して、最終判断をする保護者への情報提供のタイミング 私生活への関り方	学校の教職員が学校の立場で相談にのり、出来る限りのサポート	学校短信【8月・12月・3月】 成績表(通信欄あり) 注意・警告書面 保護者からの感謝書面

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>一部の保護者については、「子供に任せている」という姿勢をとっていることから、問題のある学生の指導に有効な協力を引き出せない場合がある。</p> <p>他方、学校が仲介することにより、親子のコミュニケーションが復活するケースもあり、負担は大きい連携を模索してゆく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・片親、共働きの保護者もあり、日中の保護者との連絡が困難になっている。 ・授業中体調不良を訴える者も散見され、学生の基礎体力や食生活／睡眠時間に心配がある。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4 4 2 2	<input type="checkbox"/> 創立 25 周年を機に同窓会組織を発足し、2008 年度以降体制を整え、2012 年度 30 周年、2017 年度 35 周年同窓会を実施した <input type="checkbox"/> 必要に応じ、卒後の相談には応じている。	同窓会事務局の設置 卒業生データのメンテナンス 再就職斡旋機能の設置	左記課題の検討	同窓会規約 創立35周年記念同窓会開催記録
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	1 3	<input type="checkbox"/> 具体的な実施に至っていない。 <input type="checkbox"/> 就職先について、2018 年度研究会活動に参加した。	社会人向け資格取得講座	2019 年度社会人向け資格講座を開設	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	4 4 3 3	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の就学に関しては「附帯教育」として学則に定めている。 2018 年度 JTB グループ社員 1 名を夜間部にて受け入れた。(3 年連続) <input type="checkbox"/> 長期履修制度は導入していないが、社会人学生の入学は可能である <input type="checkbox"/> 図書室、実習室、PC 教室は 21 時までの利用が可能 <input type="checkbox"/> 実施している	グループ外も含めた、社会人向け講座の設置	5-21-2 と同じ	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>同窓会活動については、上述したように約20年間公的な活動が行われなかったが、2008年度によりやく体制を整え、2017年度は35周年を実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会については、2017年度に35周年同窓会を開催した。 ・社会人教育については、2018年度JTBグループの社員を1名夜間部にて受け入れ(3年連続)、結果総合旅行業務取扱管理者合格 ・2019年度はグループ外も含めて社会人講座を開設

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育設備に関し、実習室(ホテル・旅行)は質的に十分とは言い難いが、学内での講義・実習と学外での企業実習とを効率的に組み合わせることにより、関連業界の実態を踏まえた実践的な教育を行っている。</p> <p>学生ホール等、その他設備は充実されており、特にパソコン教室は有数のものと自負している。</p> <p>さらに、2010年度からは教育環境基盤として、教室のインターネット環境や電子黒板、短焦点プロジェクターの導入等、ビジュアル活用に力点をおいた設備の充実を図ってきた。</p> <p>さらに2012年には学内にWiFi環境を整備し、タブレット端末を活用した授業を開始し、33期生からは同端末を全員に配備し授業に役立っている。</p> <p>学外実習、インターンシップ、国内・海外研修は、教育課程上の位置づけを明確にし、充実させている。(特記事項欄参照)</p> <p>防災体制については、建物が小規模であることから、脱出ルートは平易で安全面での問題はなく、新入生は入学時に防火訓練を実施している。</p> <p>2011年の東日本大震災発生時においては、学生・教職員および建物に被害はなかったものの、地震対策の訓練が不足していたため、震災後、地震対策マニュアルの整備、学内・教室への地震対策備品の設置を進めるとともに、定期的な避難訓練を実施している。</p>	<p>教育設備・環境等に関しては、左記のとおり、ここ数年間で充実化を進めてきたが、今後の課題としては以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> エレベーターやトイレの問題等、現状の構造・設備のままでは、障がい者対応は難しく、将来的な学校設備のバリアフリー化についての検討が必要である。 今後も充実した学外実習や研修を継続すべく、実習先・研修先となる関連企業の維持拡大が必要である。 防災に関しては、必要備品等の充実を図ってきたが、有事においては通常のコピーマニュアルが全く役立たないことも想定しなければならない。このため、迅速かつ適切な判断力の養成に向け、全教職員におけるリスクマネジメント意識の強化、クライシス対応に向け、充実した内容の訓練を継続することが必要である。 PCソフトウェアに関しては、JTBグループで活用している予約端末の教育用システムを導入するなど、ホテル予約システムや航空予約システム等の実践的システムを整備しているが、システムのバージョンアップに随時対応する必要がある。 	<p><学外研修等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際観光ビジネス科 教室での座学、実習室での模擬カウンター実習、JTB 支店・空港等の見学、4～6 週間支店実習など、JTB グループならではの実践的プログラムがある。 ●国際ホテル&ブライダル科 教室での座学、実習室での実技訓練、ホテル見学、ブライダル会社での実習講義、2 か月×2 回のホテルインターンシップがある。 ●共通プログラム 選抜制による、約3週間の海外派遣研修員制度(観光科はJTB 在外支店、ホテル科は提携ホテルでの現地実務研修)を設けている。 ●夜間部デュアル科 主に JTB グループ会社の理解と協力を得て、学生の企業実習目的も含め、昼間のアルバイト先を斡旋している。

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

田口昌彦

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>現在の校舎は 1986 年に竣工し、32 年が経過する中で概ね順調にメンテナンスを行ってきている。</p> <p>今後も JTB アセットマネジメントと密な連携をとりながら、中長期のレンジでの設備投資、補修計画を立て、学校としての優先順位を定め、適切に実行していくこととしたい。</p>	

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	田口昌彦
--------	----------------	-------	------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先等に行事の案内をしているか	4 4 4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 学習指導要項のカリキュラム内容にて明確にしている <input type="checkbox"/> 事前教育にて徹底している <input type="checkbox"/> 旅行、ホテル・ブライダル業界での実習を行っている <input type="checkbox"/> 実習箇所からの評価をもとに指導している <input type="checkbox"/> 定期的に意見交換の場を設けている <input type="checkbox"/> 実習箇所とのヒヤリング等により効果検証をおこなっている <input type="checkbox"/> 積極的に参加させている <input type="checkbox"/> HP、保護者向け学校短信、地元町内会への連絡等で案内している	実習先・研修先企業の安定的な確保と企業の実施希望時期のマッチングが課題 教育効果を高めるため、事前教育の充実が課題 内定者入社前実習について、実習申請・実習ノート等を提出	左記企業とのコミュニケーション強化 JTB グループ在外支店との連携 海外事情の収集 事前教育プログラムの充実 内定者入社前実習について、実習申請・実習ノート等の提出を実施	学外実習・研修等実施状況表 研修報告書 海外派遣生レポート 実習ノート

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係機関の協力により、国内・海外において、独自の様々な実習・研修を実施し、効果を挙げているので、引き続き関係機関との連携を深め、学外実習先・研修先の安定的な確保が必要である。	海外支店・海外ホテル実習は、他校にはないプログラムであり、より教育効果を高めるため、実習先・研修先企業の安定的な確保とともに、事前教育の充実が課題である。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	坂本 友理
--------	-----------	-------	-------

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか	3 - 4	<input type="checkbox"/> 特別な対応マニュアルは作成していないが、教職員間での個別対応として適切に運用している <input type="checkbox"/> 該当しない <input type="checkbox"/> 学外実習時は基本的にクラス担任が責任をもって安全管理に努めており、学校本部との間で緊急連絡体制を敷いている	対応マニュアルの作成	リスクマネジメント委員会にて作成するマニュアルの内法としたい	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>防災に関しては、地震対策マニュアルの作成、教職員・学生連絡体制の整備、備品・備蓄品等の整備等により、一定の備えはできているものの、有事においては、瞬時に的確な判断を行い、適切な行動をとらなければならないことから、全教職員の更なる危機管理意識レベルの向上と、防災訓練内容の更なる充実が必要と考えている。このため、全教職員・学生を併せた緊急連絡体制の再確認、及び安否確認や避難訓練を繰り返し行っていきたい。</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた大規模テロなどへの対応についても、災害対応と同様に検討しておく必要がある。</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策（実施策）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>募集活動は総じて順調である。日本人生徒の募集が低減傾向にあったが今年度はやや上昇した。</p> <p>① ホスピタリティマインドある人材の育成 ② 徹底した専門教育の実践と資格取得 ③ JTBを中心とした優良企業への輩出(就職) 上記①～③の魅力を全面に打ち出し、募集活動を行った。</p> <p>『定員確保』は学校経営に直結する事項であり、最重要課題として有効な広報・宣伝およびオープンキャンパス等の取組を行っている。また、首都圏地区やその周辺地域の高校や日本語学校に対し、観光業や当校特色の情報提供を強化した。</p> <p>今後は少子化・大学進学率上昇・専門職大学創設などの影響により、今まで以上の厳しい環境になっていくものと想定される。当校の強みである①JTBグループ②就職実績③資格取得を今まで以上に志願者・その保護者・進路指導教員等にアピールしていく。</p> <p>増加する留学生に対しては、グローバル社会における観光人材として大きな期待があり、観光に意欲ある優秀な学生の募集を行っていきたい。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的・効果的な広報展開 <ul style="list-style-type: none"> ・新設するグローバルインバウンドコース広報強化 ・国際ホテル&ブライダル科の定着化 ・学校案内パンフレットのコンパクト化 ・インスタグラム(SNS)による情報配信の開始 ・学生活動報告文集のHP掲載 ・東洋大学編入制度の宣伝強化 2. 営業活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・資料請求者・説明会参加者在籍校との連携強化 ・首都圏外入学実績校への指定校推薦枠設定 ・JTB 教育営業個所との連携強化 ・入学実績ある日本語学校への営業強化 ・入試改革による進路指導早期化への対応 3. オープンキャンパスの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・該当年度入学予定対象者に傾注したアプローチ ・JTB 本社訪問を含む体験入学の設定 ・体験型模擬授業の拡充 ・在校生との交流を通じた本校魅力の伝達 ・AO 受験対象者プログラムの実施 ・保護者向けプログラムの実施 4. 入学制度の改善・見直し <ul style="list-style-type: none"> ・英語能力検定有資格者への奨学金制度新設 ・(留学生)日本語能力検定有資格者への奨学金制度 	<p>学校の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校以来 36 年間希望就職率 99.9% (観光・旅行・ホテル・ブライダル業界 95.6%) ・抜群に高い総合旅行業務取扱管理者資格合格率 (全国平均の 5 倍/2018 年度実績) ・JTB グループ就職率 46.1% (36 年間累計) ・都内最初のデュアル科設置 ・ホテルとブライダルを共に学べる国際ホテル&ブライダル科設置 <p>募集に際して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集定員 240 名の充足 ・多様な志願者の受入

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	栢森 栄一
--------	-----------	-------	-------

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 高校進路ガイダンス、会場ガイダンスを通じ情報提供、入学説明会を実施している <input type="checkbox"/> 高校を個別訪問し、説明を行っている <input type="checkbox"/> 志願者・保護者・教員がわかり易く見易いように学校案内を作成している	高校主催ガイダンスや会場開催ガイダンスを通じ情報提供を実施しているが、全ての学校のリクエストに応えることは出来ていない。	進路情報誌や WEB の活用。 当校ホームページ情報の充実。 動画・SNS による情報発信。	学校案内 学生募集要項 ホームページ SNS
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 適切な受付開始時期を設けている <input type="checkbox"/> 自主規制に準じた募集活動を実施している <input type="checkbox"/> 専門部署の入学相談室を設置し適切に対応している <input type="checkbox"/> 教育活動、就職状況、企業実習その他行事等正確に伝えている <input type="checkbox"/> 情報管理の徹底を図っている	教育活動、就職状況、企業実習等の内容を具体的にわかりやすく紹介しているが、説明会やオープンキャンパスにおいて、参加者数によっては、十分に対応できないケースもある。	説明会においては、参加者一人一人が理解・納得いただけるような個別相談の機会を設ける。 説明会を定期的開催する。 専用のフリーダイヤルを設置し志願者、保護者、教員の入学相談等の案内を継続して行う。	学校案内 学生募集要項 ホームページ SNS

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか	4 4	<input type="checkbox"/> 年間スケジュールを前広に広報するとともに実施内容の充実を図っている <input type="checkbox"/> 特待生、推薦、AO 入試等多様な選考方法を取り入れている			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>募集活動は順調に推移しているが、日本人生徒の募集がやや低減傾向である。</p> <p>少子化や大学進学率上昇など学生募集環境は毎年変化しており、それに対応する情報収集と募集活動を今後も積極的に実施していく。</p>	<p>専門的な教育と就職実績の魅力により着実に学生募集に繋がっている。</p> <p>夏休み実施のテーマ別説明会は職業観を育成する魅力があるので、継続して開催する。</p> <p>首都圏及び関東周辺の高校、及び日本語学校への個別訪問を継続する。</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	栢森 栄一
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準・方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 入学選考は規程に定めた適正な基準に基づき実施しており、複数の面接官により対応している。留学生に対しては面接と日本語筆記試験の併用等により、公平性を確保している	留学生に関しては、一定レベルの日本語力が必要 又、近年は就職時、英語力も必要となるケースがある	日本語と英語の口頭試問を活用していく	入学試験結果一覧 面接記録
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 学科ごとに記録し正確に把握している <input type="checkbox"/> 入学者の特徴を把握し、柔軟に授業内容に対応している <input type="checkbox"/> 説明会参加者状況や過去実績をもとに予測している <input type="checkbox"/> 年度予算策定段階での入学見込者最終予測をベースに計画を立てている。	入学選考の評価や、高校の調査表の評価点を参考とした、クラス分け等への活用	①入学選考の評価や、高校の調査表の評価点を参考に、クラス分け等に活用している。 ②算数においては、時間外補講を実施し、能力アップを図っている。 ③英語については、2017年度よりベーシックとアドバンスの2クラスにて実施している。	入学試験結果一覧 辞退者一覧 面接記録 出願状況一覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学試験は公平に実施しており、一定のレベルを維持し続けている。	特待生入学試験制度は学生のレベルに応じて3パターンを設定している。

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

栢森 栄一

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 明確にしている(前回の改定時の立案有り) <input type="checkbox"/> 把握している。HP 等での検索による他校との比較においても、適正金額であると判断している <input type="checkbox"/> 本校の学生募集要項、及び本校ホームページに明示している	ここ3年間における学生総数の減少傾向に伴い、学納金収入と経費支出の均衡を維持すべく、設備投資や経費投入を若干圧縮してきたが、固定費部分の硬直性は強く、更なる人件費や設備投資の圧縮は、「高品質な教育の実践」に支障をきたす可能性がある。	2020 年度より学費改定を行い、学納金を増加させる。	学生募集要項 本校ホームページ
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	<input type="checkbox"/> 本校の学生募集要項、及び本校ホームページに明示し、適切に取り扱っている			学生募集要項 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学金、授業料、その他経費等、算定の過程は明確であり、金額的にも適正であると考えている。また募集要項やホームページに詳細について明示している。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）																																																																								
<p>本校は1982年の開校以来、学校法人化とその基盤整備、校舎拡張と学科増設、学生数の定員確保等に取り組み、単年度収支の改善等、学校運営に関しては厳しい環境での取組が続いたものの、2007年度以降は新入生の定員確保を継続することができた。</p> <p>これに連動して、単年の事業活動収入超過も継続し、計画的な設備投資も順調に進めながら、4号基本金(46百万円)を取り崩すことなく、2017年度末には繰越収支差額536百万円、基本金は1,235百万円と着実に増加し、ようやく財務基盤の安定化が図れることとなった。</p> <p>2018年度においては、このように着実に積み上げた運用財産を資金として、長年賃借してきた学校用地と校舎の一部をJTBから譲り受け、本校の校地と建物の自己所有化をほぼ実現させ、経営基盤の更なる盤石化を果たすに至っている。</p> <p>今後の課題としては、2018年度入学者の定員割れ等、環境が徐々に厳しくなりつつある中で、学費改定も視野に入れた中期的な経営計画の下、その計画を円滑に推進しうる戦略経費の積極的投入、計画的な設備投資、事業活動支出の適正なコントロールが重要と考えている。</p>	<p>近年は繰越収入超過額が続き、安定した財務基盤を保っているが、今後、教育設備の充実や、1987年竣工された校舎の老朽化対策等の課題にむけ、キャッシュフローの推移や財務比率による分析を推進し、中長期を見据えた中での経営安定化を目指した財務管理を推進していきたい。</p>	<p>事業活動収支の推移<過去10年間></p> <p style="text-align: right;">[単位:千円]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事業活動収入</th> <th>基本金組入額</th> <th>事業活動支出</th> <th>当年度収支差額</th> <th>繰越収支差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2008</td><td>560,552</td><td>11,301</td><td>495,067</td><td>54,184</td><td>232,813</td></tr> <tr><td>2009</td><td>539,410</td><td>2,394</td><td>494,811</td><td>42,205</td><td>275,018</td></tr> <tr><td>2010</td><td>579,218</td><td>9,221</td><td>529,040</td><td>40,957</td><td>315,975</td></tr> <tr><td>2011</td><td>568,774</td><td>832</td><td>540,305</td><td>27,637</td><td>343,611</td></tr> <tr><td>2012</td><td>592,227</td><td>9,039</td><td>548,228</td><td>34,960</td><td>378,571</td></tr> <tr><td>2013</td><td>602,255</td><td>15,796</td><td>549,667</td><td>36,792</td><td>415,363</td></tr> <tr><td>2014</td><td>589,114</td><td>20,643</td><td>537,426</td><td>31,045</td><td>446,408</td></tr> <tr><td>2015</td><td>625,256</td><td>8,406</td><td>577,626</td><td>39,224</td><td>485,632</td></tr> <tr><td>2016</td><td>613,768</td><td>0</td><td>570,617</td><td>43,151</td><td>528,783</td></tr> <tr><td>2017</td><td>580,560</td><td>0</td><td>573,321</td><td>7,239</td><td>536,022</td></tr> <tr><td>2018</td><td>532,387</td><td>244,560</td><td>520,256</td><td>▲ 232,429</td><td>303,593</td></tr> </tbody> </table>	年度	事業活動収入	基本金組入額	事業活動支出	当年度収支差額	繰越収支差額	2008	560,552	11,301	495,067	54,184	232,813	2009	539,410	2,394	494,811	42,205	275,018	2010	579,218	9,221	529,040	40,957	315,975	2011	568,774	832	540,305	27,637	343,611	2012	592,227	9,039	548,228	34,960	378,571	2013	602,255	15,796	549,667	36,792	415,363	2014	589,114	20,643	537,426	31,045	446,408	2015	625,256	8,406	577,626	39,224	485,632	2016	613,768	0	570,617	43,151	528,783	2017	580,560	0	573,321	7,239	536,022	2018	532,387	244,560	520,256	▲ 232,429	303,593
年度	事業活動収入	基本金組入額	事業活動支出	当年度収支差額	繰越収支差額																																																																					
2008	560,552	11,301	495,067	54,184	232,813																																																																					
2009	539,410	2,394	494,811	42,205	275,018																																																																					
2010	579,218	9,221	529,040	40,957	315,975																																																																					
2011	568,774	832	540,305	27,637	343,611																																																																					
2012	592,227	9,039	548,228	34,960	378,571																																																																					
2013	602,255	15,796	549,667	36,792	415,363																																																																					
2014	589,114	20,643	537,426	31,045	446,408																																																																					
2015	625,256	8,406	577,626	39,224	485,632																																																																					
2016	613,768	0	570,617	43,151	528,783																																																																					
2017	580,560	0	573,321	7,239	536,022																																																																					
2018	532,387	244,560	520,256	▲ 232,429	303,593																																																																					

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営 の中長期的な財務基 盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び 定員充足率の推移を把握し ているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがと れているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越 収入超過額がマイナスにな っている場合、それを解消す る計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度 消費収支超過額がマイナス となっている場合、その原因 を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっ ていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で 妥当な数値となっているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 把握している <input type="checkbox"/> 適切な収支バランスを 保っている <input type="checkbox"/> 2005年度以降、繰越収 支差額はマイナスになっ ていない。マイナスになっ た際はその解消策を講じ る <input type="checkbox"/> ここ19年間、繰越収支 差額はマイナスになっ ていない <input type="checkbox"/> なっていない。収支バラ ンスの中で適正な設備投 資を行っている <input type="checkbox"/> 負債はない、健全経営 を維持している	着実な当年度収支差額の 上積みと基本金組入額の 増加による、経営基盤の 更なる安定化	入学者の安定的確保、 卒業生の高就職率、 計画的な設備投資、 等の継続	理事会資料
8-28-2 学校及び法人運営 に係る主要な財務数 値に関する財務分析 を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況(消 費収支・資金収支)による財 務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸 借対照表の数値による財務 分析を行っているか	4 4	<input type="checkbox"/> 行っている、概ね良好 である <input type="checkbox"/> 行っている、概ね良好 である	特にナシ		財務分析表

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 借入金はない <input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 適切と認識している <input type="checkbox"/> 適切と認識している <input type="checkbox"/> 決算期以外は単月での月報を作成し、項目毎に予算消化率と前年比をチェックし、異常値については必ずその原因を確認している。 <input type="checkbox"/> 必要に応じ策定する			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設備投資、補修工事関係については、年間の収支バランスを見極めた中で、優先順位を決めたいえ計画的に実施している。	1号基本金を保持しつつ、4号基本金も保有している。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	4 4	<input type="checkbox"/> 教育目標達成を主眼においた事業計画、実行計画を予算に反映させており、整合性はとれている	計画的な大規模設備投資の実施	中長期(3~5年)にわたる償却資産状況の把握 投資案件の優先順位付け	理事会資料 事業計画・予算案
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 策定している <input type="checkbox"/> 生じていない <input type="checkbox"/> 科目間調整を行う等して適切に補正措置を行っている <input type="checkbox"/> 経理規程を整備している <input type="checkbox"/> 予算外支出については立案による決裁を義務付け、適切な会計処理を行っている			経理規程 権限基準表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育目標をベースとした事業計画や設備投資を織り込んだ予算編成及び執行を、適正かつ円滑に行えている。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	<input type="checkbox"/> 監事による監査を実施している			理事会資料
	<input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか	4	<input type="checkbox"/> 報告している。			
	<input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか	4	<input type="checkbox"/> 税理士法人による外部監査を定期的を受けている			
	<input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4	<input type="checkbox"/> 適切に対応している			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学では寄附行為に基づき、監事による業務、及び財産状況の監査を実施し、監査報告書を作成して、理事会・評議員会に提出している。</p> <p>上記とは別に、四半期毎に税理士による税務監査を実施しており、改善指導のあった場合は、速やかに対応している。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>コンプライアンスの推進については、学校法人としても極めて重要な経営課題の一つと認識している。教職員は、全ての学校関係者及び関係諸機関に対し、職務上の責務を負うとともに、社会全体からの信頼を裏切ってはならないという責任を担っている。</p> <p>当校では、全教職員が、市民社会及び JTB グループの一員としての信頼と責任を常に自覚して行動すべく、「学校法人国際文化アカデミー行動基準 (JTC コード)」を定めてクレドカードに著し、月一度の夕礼の場にて全教職員唱和を行っており、また、これをベースとしてより具体的な遵守事項を定め、四半期毎に遵守状況の自己点検を行っている。</p> <p>また非常勤講師に対しても、全体講師会議にて行動規範の徹底を図っており、コンプライアンス推進の趣旨は全教職員に浸透していると思料する。</p> <p>また IT 関連については、「IT セキュリティ規程、及び基準」を設けてその適正な運用を徹底し、個人情報・機密情報等取扱いの厳格化に努めつつ、今年度も更なるセキュリティ体制強化に向けた設備投資を行った。</p> <p>課題をあげるとすれば、日常業務に忙殺された中でふとした隙にコンプライアンス意識を失することから、相互チェックの励行とリスク管理体制の強化を試み、リスク発生の防止に努めていきたい。</p>	<p>適正な学校運営の推進に向け、関係法令及び専修学校設置基準等の遵守、及び運営に必要な規則・規程類の整備とその適正な運用については、最優先課題と位置づけて取組を進めている。</p> <p>また右記 JTC コードを定め、定期的にその自己点検を義務付けるなど、教職員の法令遵守意識の高揚にも取り組んでいる。特に「個人情報保護」については、コンプライアンス推進上の最重要課題と位置づけ徹底しており、今後は全教職員がこれら法令遵守意識を継続して持ちながら、日常の職務にあたるのが重要である。</p> <p>その観点から、今後も引き続き当校における内部統制システムの円滑な運用を図るためにも、定期的に実施しているコンプライアンス委員会やリスクマネジメント委員会の場を有効活用し、部署毎の遵守状況やリスク発生(含む未遂)例の共有を図るとともに、発生の未然防止に向けた具体的取組の強化を図りたい。</p>	<p style="text-align: center;">＜学校法人国際文化アカデミー行動基準＞ (JTC コード)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法令を遵守し、公正な学校運営に徹します。 2. 人権を尊重し、健全な学校運営と良好な人間関係を築きます。 3. 社会常識・社会通念など社会倫理に則って行動します。 4. よき社会人・職業人として率先垂範し、学生の手本となります。 5. JTC 基本動作を守り、ホスピタリティーあふれる親身な対応を心がけます。 6. JTC の価値と JTB ブランドの維持・向上を図り、社会の信頼に応えます。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 関係法令等の遵守により健全かつ適正な学校運営を行っている <input type="checkbox"/> 寄附行為をはじめ、就業規則、権限基準、その他必要規程類を整備し、適切に運用している <input type="checkbox"/> セクハラ防止に向けた方針は明確化し、全教職員に周知している <input type="checkbox"/> 総務部長を責任者とした対応窓口を設置している <input type="checkbox"/> 教職員に対しては、年に一度の全体会議と月一度の夕礼で JTC 行動基準を確認し、学生に対しては、授業の中にコンプライアンス基礎教育を織り込んでいる	<p>遵守状況の定期的な確認の励行。関係法令等が追加、変更となった時の適正な対応。</p> <p>教職員のみならず学生を含めたコンプライアンス教育や啓蒙活動の継続</p>	<p>学校運営に必要とする公的ルールのリスト化と、定期点検の実施。</p> <p>法令、基準、学則、規程類を網羅させた、当校独自の内部統制システムの円滑な運用</p>	学) 国際文化アカデミー 行動基準

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係法令及び専修学校設置基準等の遵守に基づく学校運営、並びに学校運営に必要な規則・規程類の整備と運用については、円滑に進めている。	当校独自の内部統制システムについては、管理職者を中心として徐々に確立しつつあるが、教職員個々の意識向上を目指し、全体的な CSR 推進意識強化に向けた、管理職層のレベルアップに精力的に取り組んでいる。

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

田口昌彦

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<input type="checkbox"/> 基本方針や個人情報保護管理規程等、関係規程類を整備している <input type="checkbox"/> 規程を定め、たうえ、情報システム機器類についても、セキュリティ強化に努めている <input type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 教職員については四半期毎に自己点検を実施、学生に対しては授業での教育に加え、実習時に個人情報保護の重要性を指導している	<p>コンプライアンス推進上の最も重要な要素と位置づけている、個人情報保護意識の、全教職員におけるさらなる向上</p> <p>あらゆるリスク発生への対応を想定した、IT セキュリティ体制のさらなる強化</p>	<p>「個人情報保護」に関する規程に基づく、日常業務遂行上での適正な定期点検の実施</p> <p>(株)JTB 情報システムへの業務委託を強化し、トラブル発生時の適格で迅速な対応に備える。</p>	<p>個人情報保護管理規程 個人情報に関する基本方針</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>個人情報保護対策は体系立てて取り組んでおり、今後の継続、強化に向けた啓蒙活動と定期点検の実施が極めて重要と考える。</p>	<p>卒業生を含む学生の個人情報保管用サーバーのオフライン化により、情報保護体制を強化。また JTB 情報システムへの業務委託により、常駐職員によるシステム運用状況の監視体制を強化している。</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	4 4 4	<input type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 毎年度終了後に部門単位にて学内実施 <input type="checkbox"/> 改善に取り組んでいる	自己評価結果を踏まえた学校運営における PDCA サイクルの確立、及び全教職員の取組意識強化	将来的な第三者評価の導入を意識した組織体制の整備	理事会・評議員会資料
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4 2	<input type="checkbox"/> 報告書は作成している <input type="checkbox"/> 特にホームページには掲載していない	自己評価結果の外部公表、及び公表方	公表を行うための体制整備	
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	2	<input type="checkbox"/> 学校関係者評価は未実施	学校関係者評価の導入を踏まえた組織体制の整備	「学校関係者評価」の導入に関する学外関係者ヒヤリングの実施	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	-	<input type="checkbox"/> 同上			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>自己点検・自己評価については、2009年度以降継続実施し、明確となった課題を翌年度学校運営計画に組み込むなど、点検結果に基づくPDCAサイクルは、確立している。</p> <p>今後も引き続き、専門学校等評価基準に準拠した点検を継続するとともに、学校関係者評価や第三者評価の導入については、今後も検討を続けたい。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する 情報公開を積極的 に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、 教職員等教育情報を積極的 に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界 等広く社会に公開しているか	4	<input type="checkbox"/> 学校パンフレット、当校 のホームページにて公開 している			学生募集要項 当校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
公開情報内容の更なる充実について、検討を進めていきたい。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	田口昌彦
--------	-----------	-------	------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献」については、JTB グループを中心とした観光関係企業・団体との交流（国際交流含む）、地元信用金庫・商店街・町会との交流などに取り組んでいる。</p> <p>学生のボランティア活動については、2014 年度より授業として取入れ、単位化を図り、その意義も含め浸透を図っている。</p> <p>年間を通して「ビジネスカジュアル」スタイルを導入することにより、エコ活動に取り組んでいるが、LED 照明・節水型トイレの導入などにより一層の積極的なエコ対策を進めている。</p> <p>上記活動の継続と拡大が課題である。</p>	<p>学生や関係者のほか、社会・地域からも、より評価される学校づくりを行うことが JTB ブランドの価値につながり、入学希望者も増えると考えている。</p> <p>今後とも豊島区をはじめとする行政や東京都専修学校各種学校協会等の各種教育団体及び地元巣鴨商店街や町内会等と、地域との共生の観点からも積極的に情報交換や交流を推進する。また、訪日インバウンドの増加に伴う、国際交流にも積極的に取り組んでいく。</p>	<p><貸教室の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国連英検、TOEIC 等の試験会場に教室を提供 ・ ロングステイ財団の研修に教室を提供 <p><留学生の地元行事参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巣鴨「とげぬき地蔵」盆踊り ・ 「天祖神社」神輿担ぎ <p><他校との交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 香港の専門学校来日時交流 <p><ボランティア活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巣鴨 1 丁目町内会及び地元企業との町内クリーンアップ活動 ・ 巣鴨地蔵通り商店街学生ボランティアガイド

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	坂本 友理
--------	----------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修、教育に取り組んでいるか	4 4 4 4 3 3 2 4 3	<input type="checkbox"/> JTB グループ行動規範にも盛り込まれており、それに基づいてJTCコードにて実践を促進している。 <input type="checkbox"/> 巢鴨地蔵通り商店街と共同で、巢鴨学生ボランティアガイドを実施している。 <input type="checkbox"/> 開放している。 <input type="checkbox"/> 依頼のあった学校に対して支援している。 <input type="checkbox"/> 学生募集部が主体となって、学校見学を実施している <input type="checkbox"/> 過去実施していたが、現在は講座内容も含め検討中 <input type="checkbox"/> ボランティア活動を授業化し、地元町内会とクリーンアップ活動を実施している <input type="checkbox"/> 教職員には、JTC コード遵守の1つとして認識させ、学生には社会人基礎的能力の必要性を授業で都度伝えている。	<p>学生や関係者のほか、社会・地域からも、より評価される学校づくりを行うことの必要性</p> <p>学校全体の取り組みには乏しい</p> <p>受講者の興味・関心のあるテーマから検討する必要がある。</p>	<p>行政・各種教育団体との積極的な連携・交流促進</p> <p>地域との共生の観点から、地元商店街や町内会とは今後も積極的な交流を推進していく</p> <p>今年度は巢鴨地蔵通り商店街のボランティアガイドを日本人学生・留学生ともに実践した。</p> <p>旅行関係で、年齢を問わず楽しく受講できる講座を検討中。</p>	<p>町内会、関係機関とのクリーンアップ活動記録</p> <p>巢鴨地蔵通り商店街ボランティアガイドチラシ</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3 3 3 4 3	<input type="checkbox"/> JTB グループ海外在外支店及び海外のホテルに成績優秀者を実習生として派遣している (毎年 20～22 名) <input type="checkbox"/> 留学生受入窓口は主に国内の日本語学校であり、そこへの積極的な情報を発信している <input type="checkbox"/> 英文案内を刷新した。広報としての活用については、海外からの訪問対応時に活用しているが、検討課題。	左記の実習生受入先在外支店数の拡大 非漢字圏からの留学生の増加	JTB グループ在外各社、及び在外ホテルとの連携強化 日本語学力のレベルアップ、及び就職力アップのためのカリキュラム・補講等の検討	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
JTB グループを中心とした観光関係企業および団体との交流や、地元信用金庫の協力を得た地元商店街との交流を引き続き積極的に推進していくとともに、行政・各種教育団体等との連携や、環境保護などの社会的問題にも積極的に取り組んでいく。	留学生の交流意欲も旺盛で、地域や企業等との交流の中核をなしている。 国際交流としては、ここ数年実施している香港の専門学校との交流を継続実施。 2020 年度新設する「グローバル・インバウンドコース」のカリキュラムに国際交流関連をとりいれていきたい。

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	坂本 友理
--------	----------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	4 4 4 4 4	<input type="checkbox"/> 地域の清掃活動等のボランティアプログラムを学生向けに設定している <input type="checkbox"/> 授業化して単位を付与している <input type="checkbox"/> JTB 発行ショッピングトラベルガイド制作への協力	韓国からの留学生減により「韓国語会話教室」は中断している。今後は「中国語会話教室」開催を検討 社会とのコミュニケーションとの視点で、上記以外にも、新たな活動の研究が必要	地元 巣鴨・豊島区及び JTB グループ各社との連携強化	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
クリーンアップ活動を中心とした地域ボランティア活動を定着させるとともに、更なる活動の拡充を検討	ボランティア活動授業を定着しつつある。2017 年はボラティアガイドも養成し、地元の商店街との連携も深めた。

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	坂本 友理
--------	----------------	-------	-------

4. 平成 30 年度重点目標達成についての自己評価

平成 30 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p><主な数値目標></p> <p>1. 入学者数:目標 240 名(定員)</p> <p>2. 基本金組入前当年度収支差額:500 万円</p> <p>3. 旅行業務取扱管理者資格試験合格率: 総合 30%以上 国内 60%以上 又は、全国平均の 2 倍</p> <p>4. 就職内定率(希望者、除く留学生):100%</p>	<p><主な数値実績></p> <p>1. 平成 31 年度入学の新生は 255 名となり、定員を確保することができた。</p> <p>2. 基本金組入前当年度収支差額は 12,131 千円となり、目標を達成した。</p> <p>3. 旅行業務取扱管理者合格率は 総合 52.6% 国内 80.9% となり目標を達成した。</p> <p>4. 平成 30 年度の日本人卒業生就職内定率は 100%となり、目標を達成した。</p>	<p>平成 31 年度についても、主要数値目標として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者数:目標 240 名(定員) ・ 基本金組入前当年度収支差額: ▲1,500 万円 ・ 旅行業務取扱管理者合格率: 総合 40%以上 国内 70%以上 又は、全国平均の 2 倍 ・ 就職内定率(希望者、除く留学生):100% <p>を掲げ、その一方、将来を見据えた中期的課題を認識すべく、2019 年度学校運営計画を策定した。</p> <p>ここに表した教務・就職進路指導・学生募集・総務といった各分野別の計画を着実に実行するとともに、経営会議や部長会を通じて適時進捗状況を共有し、必要に応じて計画に修正・改善を加える等、確実にこの運営計画を推進することとしたい。</p>